

海の温暖化に伴う出現魚種の変化と その活用に関する研究

(予算区分 県費 研究期間 2025～2026 年度)

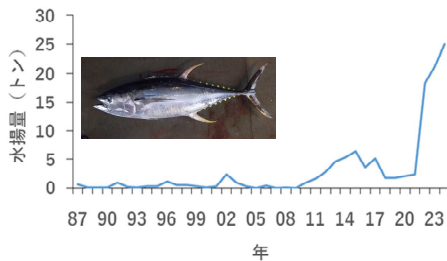
担当：水産・海洋技術研究所 資源海洋科 安倍基温・門奈憲弘・武藤 滉
開発加工科 隈部千鶴・後藤紗弥子
普及総括班 中村健太郎

【研究の背景とねらい】

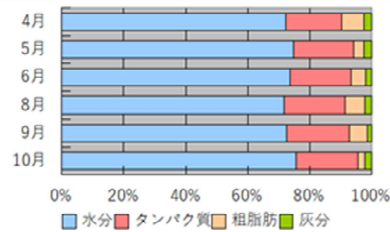
本研究では、近年漁獲が増加しているが市場価値が低い南方系魚種を市場調査やデータ整理により探索します。また、温暖化により漁獲量が増加しているものの、生態等が不明で市場価値が低い南方系魚種 3 種（カタボシイワシ、タイワンアイノコイワシ、テンジクタチ）について、漁獲実態や生物特性を把握するとともに、味や栄養成分の評価を行うことで、新たな利活用方法を開発します。

【これまでに得られた成果】

- ・ 県内市場の水揚統計等の整理や市場調査を通じて漁獲量が増加している南方系魚種を探索した結果、キハダやニベ類など該当する魚種が 10 種以上確認されました。
- ・ カタボシイワシは、焼津・由比の大型定置網で年間 27 トン程度の水揚げがあり、魚肉の一般成分を分析したところ、季節を通じて安定していることが確認されました。
- ・ タイワンアイノコイワシの 2025 年の水揚量は 118 トンと推定され、一般成分についてはカタクチシラスと差がないことが確認されました。
- ・ テンジクタチは 2025 年 6～12 月までで 4.2 トンの水揚げがあり、食味試験の結果、身と皮の硬さ及び身の色についてタチウオと差がある事が確認されました。



キハダの水揚量 (定置網)



カタボシイワシの月別一般成分組成

【期待される効果】

南方系魚種の市場価格が上昇し、漁業者所得の向上が期待できます。また、利活用方法が確立されることにより、加工原料等の不足の解消に寄与することが期待されます。

【今後の計画】

近年増加している南方系魚種について、用途等の情報を更に収集し、新たに活用方法の検討を実施する魚種を 3 魚種以上探索します。南方系魚種 3 種については、現場実装を見据えた加工製品の試作、うま味成分等の分析、身質の分析を行います。

(作成 2026 年 4 月)